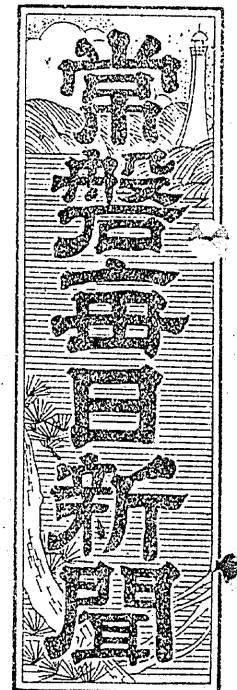


刊夕日十三月七



定額 一紙五錢 月刊五拾五錢 半年二百五十錢 一年五百錢
 印刷所 常磐毎日新聞社
 發行所 常磐毎日新聞社
 社址 茨城県水戸市本町三丁目三番地
 電話 六三〇番

日本精神と神社 (六)

石城郡神社總代人大會席上演筆記
 國學院大學教授 河野省三

そこで立返って宗教的気分といふことについて考へて見ますと今の社會は慥かに宗教的な気分若しくは靈的な情操を要求して居る、我々は皆所謂新しい思想のみに求めて居るかといふに然うでない、實は嚴肅な温かい宗教味を要求して居るこれが今日の現状である夫れが満足出来ないといふと何時も極端に走つて行く若し之による高潔な人格を作り、有爲な人物を作ることが出来るならばこの教育といふものゝ上に於て因はざる宗教心、純なる宗教味を教養することが最も必要であると思ひます、現代社會は痛切に之を感じてゐる、只適當なる方法が見出されないといふ一種の弊害があります、之れが危険性を持つことは歴史が示して居る、それ故其の方法を考へなければならぬ、唯に角此の要求はある、而してそれが色々な方面に現はれて居ります、祭りといひサイといふ言葉を行はせて居るのも其の一つだと思ひます、即ち彼の間

接的補助的原宗教的靈的温かい氣持を要求して居るといふことであります、もう一つの間接原因は何であるかといふと即ち日本人の心の中に日本精神に對する自覺が起つて來たといふことであります、日本意識の覺醒であります、今日本は國體觀念の上に思想上に誠心愛ふべき状態を呈してをります、併ながら日本人は一面に於て慥かに日本民族に對する日本を自ら對する一種の自覺を感じてゐる、即ち日本精神に對する自覺が芽生ふて來て居るのであります、夫れが動いて祭といふ言葉を流行らせて居る所の心底に横はつて居る一つの間接原因である、斯う見てよからうと思ふのであります、そこで私は折角お招きに預つて此上もない好い機會を與へられ軍人勅諭御下賜五十年記念祝典日に於て、特に日本精神といふことを考へて見たい、私は日本人には日本精神の自覺が起つて來たと申しました、これは慥かに起つて來て居る、

日本といふ國は何ういふ國であるか國體の尊い立派な國で世界に稀な歴史を持つて居る國であることは皆さうも御承知である、併ながら日本國家日本民族の生命たる日本魂といふのは一体どんな魂なのであるか私は近頃色々な書物を開いて見て日本人が本當の日本を知りたいと思つてゐる、天賦の日本ではない、本當の日本、正しい姿の日本、富士山を仰ぎ見るやうな日本を知りたいと考へてゐることゝ氣が付く、殊に外國に行つた人は夫れを感じてゐるやうである外國に行つて本當の日本を知りたいと思つて歸つて見ると外國の着物を着、外國の文明の這入つた日本だけしか見えな、純粹の日本が何うも分らない何か本當の日本を書いたものはないかと絶えず叫んで居る、慥かに然ういふ要求がある様に思ひます私共はお互に數年來殊更に大御心を奉體して國民精神の作興を圖らうとして居りますが、其の國民精神とは何であるか本當の國民精神夫れは一体どんなものであるか、私が今日申し上げようと思ふのは我々日本人の本當の心中に持つてゐる、此の日本心純眞な日本精神之れを一つ吟味したいと思ふのであります、そこで是れから本論に這入りまして私が見ました日本精神の特質を申し上げて見たいと思ひます。

難波醫院
 平町新川町
 電話五〇二番

貸切は●●●
 セダン揃ひで
 貸切専門の
昭和タクシー
 電話三四三

正札堂の夏服
 黒セルセビロ上下 六圓ヨリ
 パンピースセビロ上下 八圓五十錢ヨリ
 ポーラーセビロ上下 九圓ヨリ
 ポーラー最上品三ッ組 拾八圓五十錢
 白ズボン 七拾五錢ヨリ
正札堂洋服店
 電話四三六

中村齒科醫院
 平町鍛冶町七

度量衡、計量器、吸入
 用酸素、酸素吸入器
關内藥局
 電話四〇番

川本 本場新茶入荷
 一斤に付、四〇より 一一、〇〇まで
 新家庭用ほうじ茶
 斤 六〇 四半斤 一五錢
 斤 四〇 〃 一〇錢

御家庭用
 京清水焼
 御前茶器
 番茶器
 組三〇錢
 在荷豊富

香味本位の本場銘茶を召上りませう
 電話三九六番
大勝園

質物一般
 各種債券類
三井質店
 平町四丁目川岸
 電話六〇六番

外科
 X光線科
 性病科
 外科
 平町田町
安齊外科醫院
 電話四七五番

金銀 高價買入
 プラチナ
 平町田町丸新デパート
 假營業所
根本時計店

平實業公民學校が

明日から願書受付

晝間修學の餘暇なき者に

商業に關する技能を教育

平商業補習學校改稱平實業公民學校は来る九月五日から平商業學校々々舎内に

二ヶ年、後期二ヶ年、高等科四ヶ年、専攻科二ヶ年で授業料は各科共に一ヶ月金五十錢、入學願書は明日から受付を開始し九月一日締切るとの事であるから此際入學

志願者は直ちに平商業學校内の同校に入學案内や學則を請求一覽されたしといふ

年限は普通科が前期

愛の新生

社會事業の宣傳

平町主催映畫會

既報平町役場にては着々準備中であつた社會事業後援の機關として新設される助成會も近く寄附金の募集を行つて愈よ活動開始の段取り迄に進行したのでこの際社會事業の趣意を宣傳する爲め來月八日午後七時より平第三小學校に於いて縣社會課のヒルム愛の新生外數種を上映する事になつたと

競川堰競賣處分

磐城鮫川堰普通水利組合で

福島へ

東北大會に出場

既報縣下中等學校野球大會に於いて準決勝戦迄進んだ磐城中學校チームは来月一

柔劍道

大會の期日

既報磐城中學校にては明後八月一日午前八時より同校道場に於て開れる縣下中等學校柔劍道大會の係員を各々職員に割當たが本日午後一時より種々打合せを行ひ校長より當日の注意等があつた尚明日午後一時より各々参加校(柔道十九校、劍道廿一校)の部長集合試合の組合せを爲すと

葉煙草耕作其他

自力更生案

川前村で協議

石城郡川前村役場では村經濟の自力更生案確定の爲め去る廿八日午前九時より小學校に於て委員會を開催し左記事項を協議したと

- △米麥及蔬菜の改良に關する件
- △葉煙草耕作に關する件
- △放馬組合設置に關する件
- △蠶業並に林業の改良に關する件
- △農村教育改善に關する件
- △村民負擔費の軽減に關する件
- △縣村道の改修方陳情に關する件

農試分場長が

突然に退職

昨日本場に赴く

神谷農事試験分場長伊藤幸三郎氏は今回突然退職し横濱市の百合輸出組合に就職する事となつたので昨廿九日郡山本場事務引繼の爲め出發したと

新舞子の

浴客警備

草野青年團が石城郡草野村青年團では來

月一日より卅一日迄同村新舞子海岸の夏井川河口に於ける浴客の警備に當る由

内郷信用組合員
小名濱海岸清遊
石城郡内郷村信用組合では明廿一日組合員百餘名が小名濱海岸で組合員相互の親睦を兼ねた清遊を催す由

平町の温度

- 平裁判所 八九・〇
- 平刑務所 八四・〇
- 第一小學校 八九・〇
- 第二小學校 九〇・〇
- 第三小學校 九一・〇
- 警中校 八八・〇
- 平商校 八九・〇
- 磐女校 八七・〇
- 平役場 九〇・〇
- 土木監督所 九一・〇
- 平警察署 九〇・〇
- 團體事務所 九〇・〇
- 平稅務署 九〇・五
- 平郵便局 九三・〇
- 平驛 九二・〇
- 平營林署 九〇・〇

平職業紹介所報告

- △求人者の部
- △外交員 四十才以下 高卒
- △給料歩合(平町某)
- △女中 三十才以下 尋卒
- △月二圓(平町某)
- △配達 二十才 高卒 月五圓(飯野村某)
- △倉働 三十才 尋卒 月十圓(中村町某)
- △求職の部
- △土工 二十七才 尋卒

給料面談(双葉郡津島村某)

△店員 二十一才 高卒
給料面談(平町某)

△菓子職 二十七才 尋三
修(平町某)
△電機工 二十三才 早稲
田工手在學中(下小川村某)

平町人事

△月見町一九 宮原松藏氏 八男清 回婚 姻
△鎌田町二七 大澤宗吉氏 (二五)安達郡本宮町字欠 下一八佐藤サツ(二二)

石炭の大特賣

塊炭 正味十貫目 俵 金貳拾錢

●品が良ク「値が安ク」
「目方ハ正確」デス
▽トニカク一度……
使ツテ見テ下サイ

御注文ハ

電話三七番

阿部石炭商店

専門 内科一般

内科は何でも診療致します。往診 呼吸器病ばかりではありません

川井内科診療所

醫學士 川井重之
女醫 川井安子

吉田眼科病院

平町南町六五 電話六八番

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道 軒圓玉 演
近藤 紫雲 畫

第百十四席

真庭念流の達人櫻井五助

林藏を殺す相談

足立屋の女將が心配する
源太郎が

源「さアおやまこの畜生の
譯を云へ」

やま「云はなくつてよくお
聞き、お前方の親分猪之松

さんはね林藏の爲めに殺さ
れたらう、その林藏が今度

國へ歸つて来て大手を振つ
て土地に居るのを見ながら

今日まで生かして置くとは
意氣地なしに相違ないぢア

ないか、又親分に恩を受け
ながら目の前に敵を見て其

儘助けて置くは恩知らず恩
を知らなければ畜生だ、わ

たしは女だが林藏を見る度
に口惜くつて喰ひ附いて遣

り度いと思ふ事がある、何
だにお前方は親分だの見イ

だのと云はれて俠客のやう
に威張つてゐたところで林

藏に指もさす事が出来ない
ぢアアないか、意氣地なし

め、私は口惜くつて』
と襦袢の袖をビリビリと

喰ひ裂いた源太郎始め一同
それを聞いて

源「おやまさんお前の腹の
立つは尤もだ、俺達も目の

前に親分の敵を見ながら今
日まで助けて置くは成る程

おめえの云ふ通り俺達』
帝

生同様思はず又意氣地な
し、然しこの事に就ては譯
がある、今それをおめえに
話して聞かせるから、此方
へ入つてくんねえ、ところ
で姐さん、少しおやまさん
に相談したい事があるんだ



ちよいと幕を切つておく
れ』
女「ハイどういふ御用か知
りませんが、どうぞア荒
事をしないやうに」
源「そんな事を心配しな
さるナ、大丈夫だ安心して
居な」
足立屋の女將と女中を遠

ざけて源太郎が
源「おやまさん、此方へ入
つておくれ、オイ音吉何を
てめえ考へてゐるんだ、そ
の猪口をおやまさんに獻し
てくんねえ」
音「いめえましいナ、お袋
が間拔けな事をしたから畜
生だと言はれた、こんな馬
鹿な事はねえ」
源「アアい、やナ、俺が今
おやまさんに話をするから
さておやまさん、俺達が林
藏を今日まで拾置いたに就
ては斯ういふ理由がある」
林藏の父磯五郎が猪之松
の母親に五十兩の金を與へ

なけりやアならねえ』
と仔細ありげな一言、お
やまはどんな事かと膝を進
めた、聲をひそめた源太郎
おやまに向ひ源「今言つた
通りなわけに林藏の親父磯
五郎が、親分の阿母さんを
抱込んで内濟にしてしまつ
たから林藏をどうする事も
出来ねえ、尤も其時俺達か
ら彼奴が堅氣になつたなら
ば助けて置く、若し四文字
でも賭突をしたら助けて置
かねえと斯う磯五郎の許へ
苦情を持たんだ、スルト屹
度林藏を堅氣にしますとの
返答それではどうも仕方が
無え、ア野郎を見遣して
置くと若い者を宥めて置い
たスルト此頃林藏が諸方に
賭場を敷いて公然と博奕を
する、その上俺達の賭場を
荒して客人の懐中を洗ひ又
場金を没収も尤もそれは林藏
自身が手を下した譯ではね
えが、伊勢から来た客人二
人を人形に使つて賭場を荒
し廻るさういふ事をされて
黙つて居ては死んだ親分に
申し譯かねえ、第一俺の達
男が立たぬ、そこであいつ
を殺らしてしまふつもりだ
が、知つての通り長脇差に
は惜い腕だ、秋山先生から
仕込まれた剣術は先づ名人
と云つても好いほどもし彼
奴を逃がすやうな事がある
と、恥の上塗りをしなければ
ならねえ、そこでおめえ
の腕を借りてえが、聞けば
彼奴が始終遊びに来るとの
事、其時おめえが腕に燃り
をかけてうまく絞なして身
體の利かねえやうに酔ひた

ふして俺の方へ知らして呉
れ、おめえの知らせを待つ
て踏込み首にしてしまふ何
うか骨を折つて貰ひたい』
と頼み込みました

運動靴は……
月 星
品質は斯界の王
名入れ金具付きの
サーピス
平田町
大塚運動具部
電話七七番

看護婦急派
の求めに應
じます
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

梅毒 淋病 皮膚病 婦人病 腸胃病 腸性病

林病 門專

院醫科 腸病 腸性病

七〇一話電町南平

丸共榮漆器店

品質の正確と!!!
値段の破格と!!!
在庫品豊富と!!!
懸命の奉仕は!!!
弊店のモットー!!!

漆器は 專門が

各國産漆器 專門卸小賣 平町三丁目北裏(元郵便局裏通り)

記念表彰品 進物贈答品 恩賜賞典品 賞品景品類 御注文應調製

◎店員募集(十三才より二十三才まで)

正確な時計

お客様本位の……

好適の眼鏡

平一常盤屋時計店

玉屋洋品店

平町町通電話六五六番

丸共榮漆器店

品質の正確と!!!
値段の破格と!!!
在庫品豊富と!!!
懸命の奉仕は!!!
弊店のモットー!!!

漆器は 專門が

各國産漆器 專門卸小賣 平町三丁目北裏(元郵便局裏通り)

記念表彰品 進物贈答品 恩賜賞典品 賞品景品類 御注文應調製

◎店員募集(十三才より二十三才まで)

正確な時計

お客様本位の……

好適の眼鏡

平一常盤屋時計店